

## 平成 29 年度 練馬区地域おこしプロジェクト選定事業の評価について

団体名	NPO 法人障がい児・者の学びを保障する会
事業名	ダイバーシティ発信基地 ILDK (アイエルディーケー)

### 1 平成 29 年度 of 取組内容

本事業は、主に特別支援学校卒業から就労への移行期にある知的障害のある方が自立した社会生活を営めるように、様々な「学び」の機会や場を提供する取り組みです。そのため、江古田地域にコミュニティ拠点を開設・運営することを目標にされてきました。

平成 29 年度は、拠点の継続費用にかかる収入源の不足および団体の活動があまり認知されていない中で拠点を開設することの危うさから、拠点の開設を見送りました。まずはどのような「学び」を提供することが効果的なのか、フィードバックを得るために楽しく交流できるワークショップを試行することを当面の具体的行動として定め、2月に区主催「練馬つながるフェスタ 2018」に出展し、第一回目のワークショップを実施。60 名以上の方が参加されました。

また、当団体には大きく 2 つの事業の柱〔①ILDK 事業、②法定サービス（生活訓練等）事業〕があります。当初、地域おこしプロジェクトの対象としていた①ILDK 事業だけを切り取って採算性を高めることは難しいため、②法定サービス（生活訓練等）事業を併せた総合的な取り組みを、区の支援対象としました。

年度末には、文部科学省補助事業「平成 30 年度学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」に応募しました。採択されることにより、今後の ILDK 事業の充実を図る予定です。

### 2 平成 29 年度 of 評価

江古田地域において、住民からの知名度が低く、地域のニーズを把握せずに拠点を開設することは時期尚早であると判断し、試行ワークショップを重ね、提供する「学び」のプログラム確立を優先した点は評価できます。上記①、②の事業を並行実施することで収支が成り立つ事業ですので、2 事業の両輪を軌道に乗せることが不可欠です。

平成 29 年度は、事業を熟考する時間は長かったにもかかわらず、対外的な取り組み成果は少なかったため、区民を巻き込んだムーブメントまで発展していません。

障害のある方の QOL（クオリティーオブライフ）向上という事業目的は共感できますので、平成 30 年度は、上記①、②の総合的な事業計画の作成とそれを実施する実施体制の強化が必要です。収入源および人材の確保に取り組み、対外的な取り組み成果が得られることを期待します。

### 3 平成 30 年度 of 事業継続

{  可 ・ 不可 } とする